

原子力に関する世論調査の 若年層の回答傾向とアプローチ方法

2023年2月14日

日本原子力文化財団

日本原子力文化財団のご紹介

■一般財団法人 日本原子力文化財団 <http://www.jaero.or.jp>

代表者：理事長 榎本 晃章 / 所在地：東京都港区芝浦2-3-31第二高取ビル5階

昭和44年設立の**原子力広聴・広報団体**で、各関係機関（電力会社など）と連携し、さまざまな手法でエネルギーや原子力、放射線などの情報提供活動を展開している団体

活動実績

●月刊誌「原子力文化」の発行



●次世代層向け情報提供

- ・エネルギーや放射線の出前授業
- ・高校生の課題研究活動支援



●パンフレット等の発行



●WEBでの情報提供「エネ百科」

- ・ニュースでよく聞くあのはなし
- ・動画「エネルギーアカデミー」
- ・原子力・エネルギー図面集
- ・原子力総合パンフレットWEB版
- ・原子力防災シミュレーション など



●セミナーの開催



●世論調査の実施



1. 調査概要（目的、手法、実査時期）

2006年度から同じ手法で継続的に実施している全国規模の調査 原子力に対する世論の経年変化を観察できる他に類を見ない調査

調査の目的

原子力に対する世論は、事故や災害などの出来事があるごとに大きく変動する傾向がある。そのため、本調査では、全国規模の世論調査を**定点的**、**経年的**に実施し、**原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を正確に把握**することを目的として実施している。また、調査結果を基に、さまざまなステークホルダーが活用することができる情報発信方法を検討している。

調査手法

定点調査

- ・調査地域 全国
- ・調査対象者 15～79歳男女個人
- ・サンプリング 1,200人／住宅地図データベースから世帯を抽出し、個人を割当
- ・標本数の配分 200地点（1地点6サンプル）を地域・市郡規模別の各層に比例配分
- ・調査手法 オムニバス調査
訪問留置調査

実査時期

経年変化

- | | |
|----------------|---------------------------|
| 第1回 : 2007年1月 | 第9回 : 2015年10月 |
| 第2回 : 2007年10月 | 第10回 : 2016年10月 |
| 第3回 : 2008年10月 | 第11回 : 2017年10月 |
| 第4回 : 2010年9月 | 第12回 : 2018年10月 |
| 第5回 : 2011年11月 | 第13回 : 2019年10月 |
| 第6回 : 2012年11月 | 第14回 : 2020年10月 |
| 第7回 : 2013年12月 | 第15回 : 2021年10月 |
| 第8回 : 2014年11月 | 第16回 : 2022年10月→2023年3月公開 |

**2021年度
15回目
2006年度から
継続的に実施**

【委員メンバー（敬称略・50音順）】

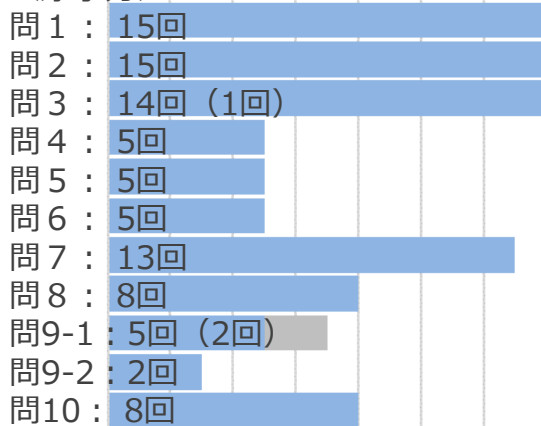
- ・飯本 武志 東京大学 教授
- ・遠藤 博則 東京都墨田区立豎川中学校 副校長
- ・川上 和久 麗澤大学 教授
- ・高嶋 隆太 東京理科大学 教授

【本件に関する問い合わせ先】

日本原子力文化財団 企画部（担当：坂井、永田）
東京都港区芝浦2-3-31 5F TEL : 03-6891-1572
mail : survey@jaero.or.jp（■を@に変えてください）

1. 調査概要（2021年度の調査項目と継続性）

<原子力>



原子力に対するイメージ
放射線に対するイメージ
原子力やエネルギー、放射線に対する関心
エネルギー・環境の情報保有量
原子力の情報保有量
放射線の情報保有量
今後利用すべきエネルギーに対する考え
今後の原子力発電の利用に対する考え
原子力発電の再稼働に対する考え
安全対策の強化の情報保有量、考え
原子力・放射線のベネフィット・リスク認知

ベネフィット認知：原子力発電、核燃料サイクル・プルサーマル
経済性（国／電気料金）、地球温暖化、放射線利用
リスク認知：原子力発電（安全確保、地震、防災体制）
放射線（汚染／将来世代への影響／食品）

高レベル放射性廃棄物の情報保有量
高レベル放射性廃棄物の処分に対する考え
事業者／専門家／自治体／国に対する信頼
原子力等の情報源とその信頼性
人や組織の発言の獲得経験とその信頼性
利用経験／利用希望
利用しない理由
自由記述（原子力／情報発信に対する考え）

青：世論の雰囲気把握する項目

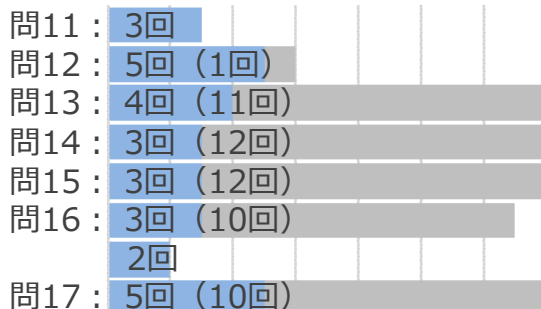
緑：情報の受け手の意識を把握する項目

赤：世論の態度※を把握する項目

※ものごとに直面した際、自分の感情や情報を使って
自身の行動を決める要因

橙：原子力の社会的受容性を把握する項目

黒：知識の普及活動を検討するための項目



※カッコ内：異なる形式での回数

<生活意識や情報収集>



エネルギー・環境に対する意識
普段の生活意識や行動に関する考え（社会性）
情報獲得（スマホアプリ）とその信頼性
講演会で聞きたいジャンル（一般的興味）

「継続性」と「時勢に合わせた改定」を
バランスよく組み合わせた質問設計

長年、継続している質問
→経年変化を観察

時勢に合わせて調査項目を改定
→情勢の変化に合わせてながら
原子力の世論の動向を把握

1. 調査概要（クロス集計軸 2021年度）

単純集計

×

クロス集計軸

【属性】

- 性別
- **年代** \ 若年層に注目 /
- 職業 ● 世帯年収
- 子どもの有無
- 女性 – 仕事の有無

【地域】

- 地域（10地域）
- 都市規模
- 都道府県
- 原子力発電所
隣接（30km圏内） / 非隣接

【情報の受け手の意識別（4段階）】

- エネルギー・原子力・放射線に対する関心
高い層 / 中程度の層 / 低い層 / ない層
- 情報保有量
 - ① エネルギー・環境
 - ② 原子力
 - ③ 放射線
 - ④ 原子力発電所の安全対策の強化
 - ⑤ 高レベル放射性廃棄物の処分
- 多い層 / 中程度の層 / 少ない層 / ない層

【態度別】

- 今後利用すべきエネルギーに対する考え
- 今後の原子力発電の利用に対する考え

【意識・行動別】

- エネルギー・環境意識
- 社会性

※ 社会性とは、主に自治体や地域社会などの「社会」に対してどの程度、関わりを持つようとしているかを示したものの。

「性別」、「年齢」、「原子力の情報保有量」、
「原子力利用の考え」のクロス集計結果を中心に分析

||

原子力に関する世論の動向や情報の受け手の意識を把握

2. 原子力に関する世論の動向

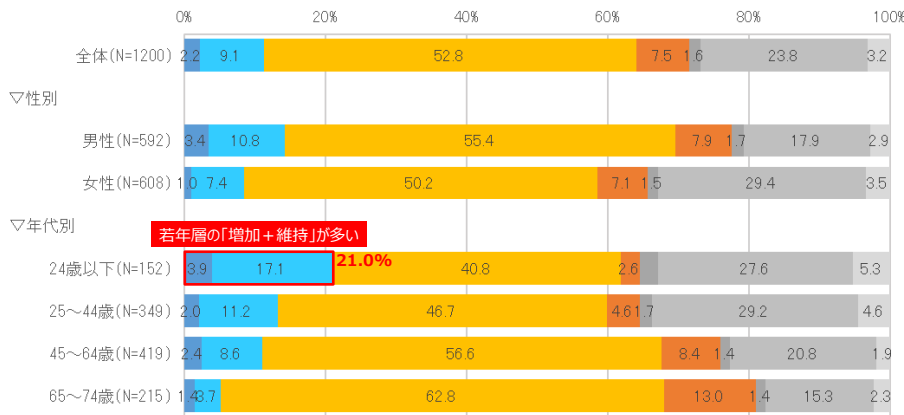
2-1. 今後の原子力発電の利用に対する考え

2-2. 原子力発電のベネフィット認知 地球温暖化との関係

2-1. 今後の原子力発電の利用に対する考え (2014~2021年度)

問8 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

【2021年度】



【2021年度】

「しばらく利用するが、徐々に廃止していくべき」が50%超で最も大きい意見、次いで「わからない」が20%程度と続く
 「増加+維持」は10%程度、「即時、廃止すべきだ」は10%以下

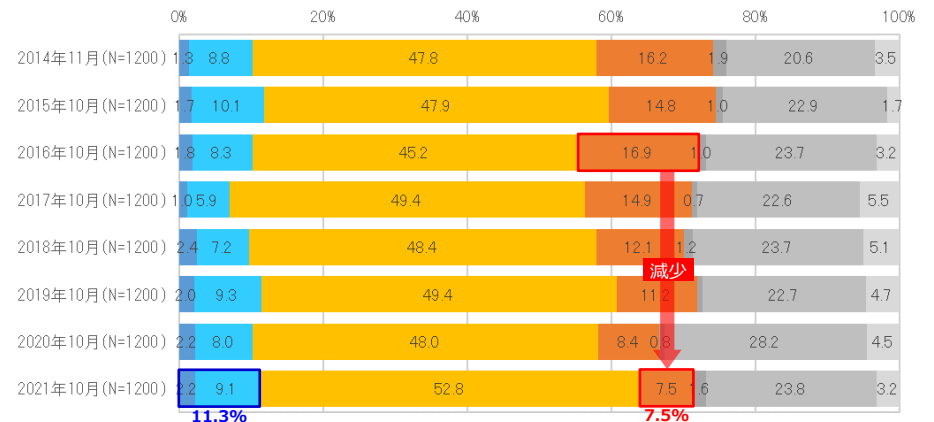
【性別による差】

- 女性：「わからない」のポイントが高い (29.4%)

【年代による差】

- 24歳以下：他の年代より「増加+維持」のポイントが高い (21.0%)
- 24歳以下、25~44歳：「わからない」のポイントが全体よりも高い
- 年齢が高いほど、「わからない」のポイントが低く、「即時廃止」が高い

【2014~2021年度】



■ 原子力発電を増やしていくべきだ (増加)
 ■ 東日本大震災以前の原子力発電の状況を維持していくべきだ (維持)
 ■ 原子力発電をしばらく利用するが、徐々に廃止していくべきだ (徐々に廃止)
 ■ 原子力発電は即時、廃止すべきだ (即時廃止)
 ■ その他
 ■ わからない
 ■ あてはまるものはない

【経年変化】

- 2016→2021の変動

「即時廃止」の意見は減少傾向※ ※ x²検定により 有意差があることを確認

数値としても一桁となり、「増加+維持」の割合を下回った

即時廃止 7.5% < 増加+維持 11.3%

“若年層”は、他の年代より今後の原子力発電の利用に対する肯定意見の割合が多い

2-1. 今後の原子力発電の利用に対する考え (2017~2021年度)

問8 今後日本は、原子力発電をどのように利用していけばよいと思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

【2017~2021年度】年代別

■原子力発電を増やしていくべきだ
■震災以前の原発の状況維持していくべき
■原発は徐々に廃止していくべき
■原発は即時、廃止すべき
■あてはまるものはない
■その他
■わからない

・ 増加+維持

2017→2021で、若年層(24歳以下)の「増加+維持」は多少の変動はありながらも、増加傾向※

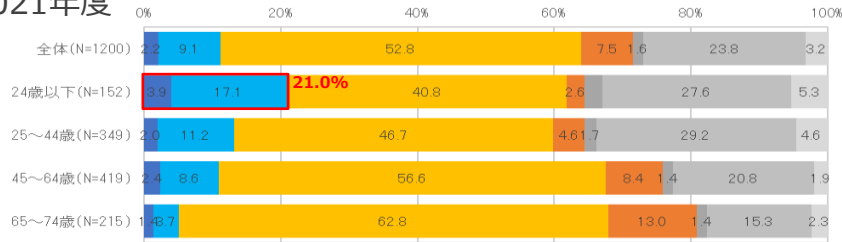
・ 即時廃止

2017→2021で、ポイントが減少傾向※

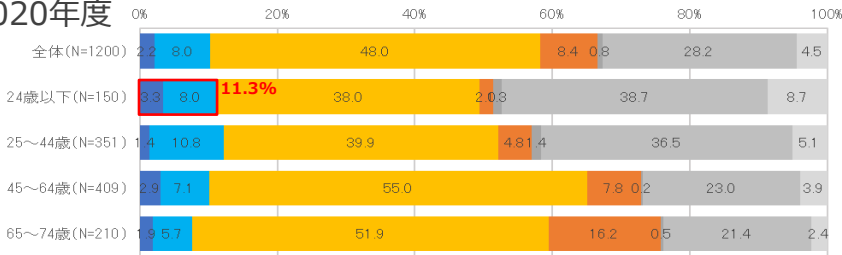
青年層(25~44歳) : 12.1% → 4.6%
 壮年層(45~64歳) : 15.5% → 8.4%
 高齢層(65~74歳) : 20.6% → 13.0%

※ x²検定により 有意差があることを確認

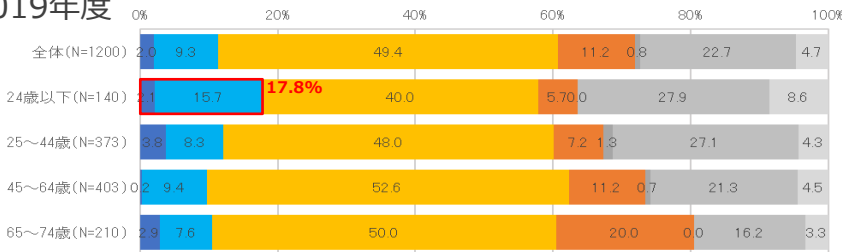
2021年度



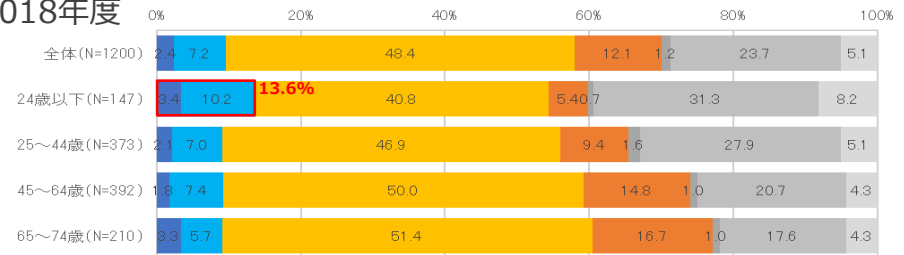
2020年度



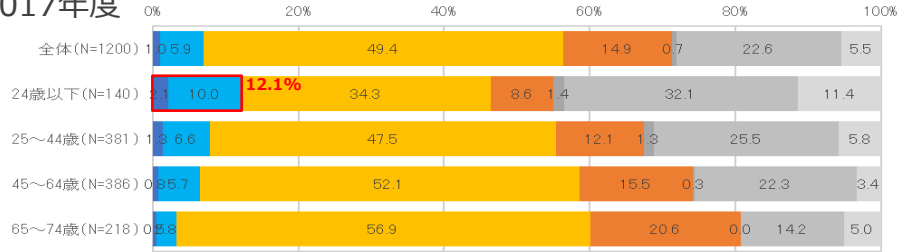
2019年度



2018年度



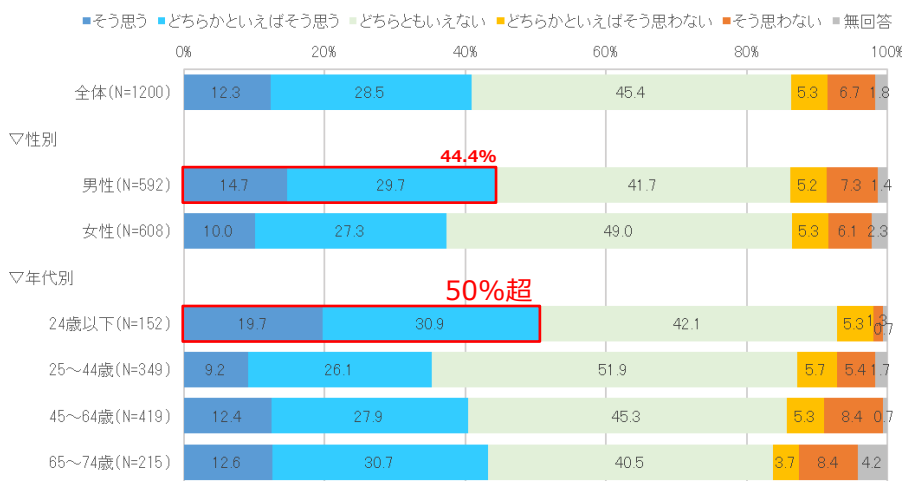
2017年度



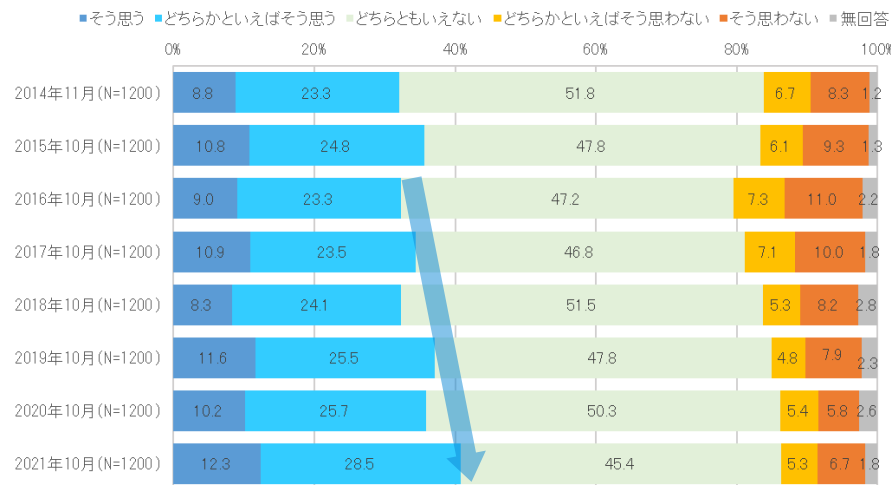
2-2. 原子力発電のベネフィット認知 地球温暖化との関係 (2014~2021年度)

問10 あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)
【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】

【2021年度】



【2014~2021年度】



【2021年度】 肯定的意見が優位

- 肯定的回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）40.8%
- 否定的回答（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」）12.0%

【性別による差】

- 男性：肯定的回答が女性に比べて多い（44.4%）

【年代による差】

- 若年層（24歳以下）：肯定的意見が50%を超え、他の年齢層よりポイントが高い

【経年変化】

- 肯定的意見：2016→2021で増加傾向※

※ χ^2 検定により 有意差があることを確認

原子力発電の地球温暖化防止への貢献
特に“若年層”で肯定意見が多い

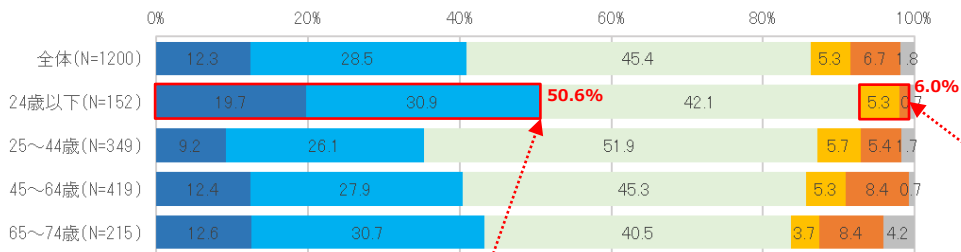
2-2. 原子力発電のベネフィット認知 地球温暖化との関係 (2017~2021年度)

問10 あなたは、次のそれぞれの事柄について、どう思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)
 【原子力発電は発電の際に二酸化炭素を出さないので、地球温暖化防止に有効である】

【2017~2021年度】年代別

■ そう思う ■ どちらかといえばそう思う ■ どちらともいえない ■ どちらかといえばそう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

2021年度



・ 肯定的回答

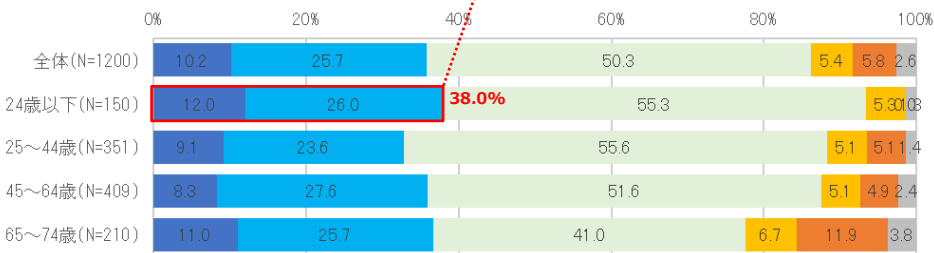
2020→2021で、若年層(24歳以下)のポイントが増加傾向※
 (38.0%→50.6%)

・ 否定的回答

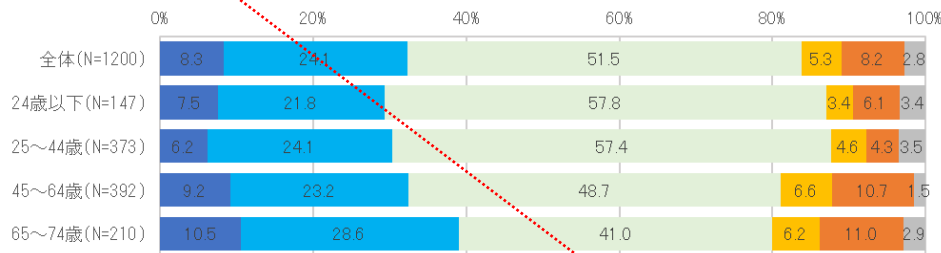
2017→2021で、若年層(24歳以下)のポイントが減少傾向※
 (12.1%→6.0%)

※ χ^2 検定により 有意差があることを確認

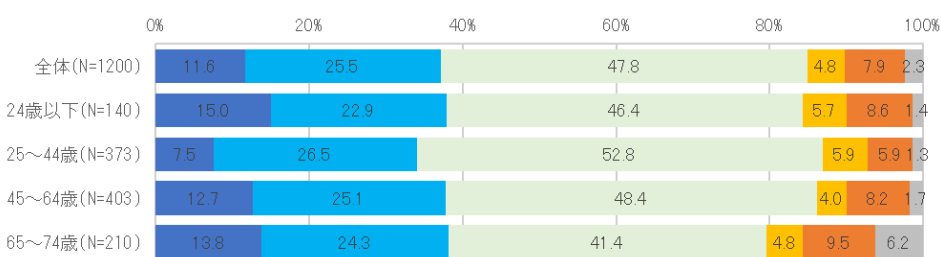
2020年度



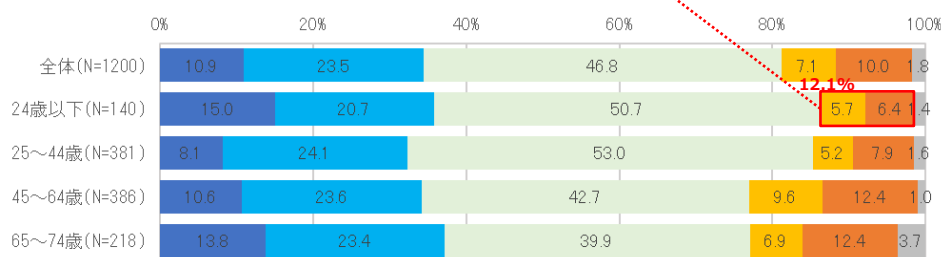
2018年度



2019年度



2017年度



3. 情報の受け手の意識

3-1. ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源

3-2. 情報発信者に対する信頼

3-3. 情報提供の利用

3-1. ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源 (2021年度)

問14-1 ふだん原子力やエネルギー、放射線に関する「情報を何によって得ていますか」。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

【2021年度】

	全体	性別		年代			
		男性	女性	24歳以下	25～44歳	45～64歳	65～74歳
全体(N)	1200	592	608	152	349	419	215
新聞	48.8	53.4	44.2	24.3	29.8	55.8	75.3
テレビ(ニュース)	78.1	78.7	77.5	65.8	70.8	82.3	86.0
テレビ(情報番組)	40.3	38.9	41.8	33.6	38.4	48.0	36.7
テレビ(ドラマ)	3.2	2.9	3.5	5.3	2.3	3.6	2.8
テレビ(CM)	6.1	7.8	4.4	6.6	4.9	6.4	7.0
ラジオ	9.5	12.3	6.7	0.7	6.9	10.5	14.9
雑誌	5.7	7.9	3.5	1.3	2.6	6.2	12.1
自治体の広報紙	10.8	9.5	12.2	1.3	7.4	12.9	17.7
事業者の広報紙	4.2	4.2	4.1	0.7	3.4	5.7	5.1
本・パンフレット	6.3	7.9	4.8	9.2	5.2	5.7	7.4
ビデオ・DVD	0.8	0.7	0.8	3.9	0.6	0.2	0.0
講演会・説明会・セミナー等	2.8	2.7	2.8	2.6	1.7	3.6	2.8
学校	6.3	6.6	6.1	35.5	2.9	2.1	1.4
博物館・展示館 PR 施設	3.5	4.4	2.6	2.6	2.6	4.3	4.7
家族、友人、知人との会話	14.5	12.2	16.8	17.1	15.5	12.6	15.8
回覧板	2.8	1.9	3.6	0.0	0.9	3.1	7.0
国、自治体のHP	5.6	6.8	4.4	3.3	4.6	6.4	7.9
原子力事業者等のHP	4.4	5.9	3.0	5.3	3.2	6.0	3.3
検索サイト上のニュース	22.8	28.0	17.6	25.0	28.9	23.2	16.7
マスコミのニュースサイト	12.8	14.5	11.0	7.9	8.3	12.6	24.7
スマートフォンのニュースアプリ	15.1	17.6	12.7	19.7	13.5	15.5	15.8
LINE	7.0	6.9	7.1	13.8	8.6	5.3	4.7
フェイスブック	1.2	1.4	1.0	0.7	1.7	1.2	0.9
ツイッター	5.4	5.6	5.3	23.0	7.2	1.2	0.0
その他SNS	2.3	2.0	2.5	5.3	2.9	1.9	0.5
メール配信	0.8	0.8	0.7	0.0	0.9	1.2	0.5
動画投稿サイト	4.3	5.2	3.3	6.6	6.3	3.1	2.8
特にない／わからない	9.3	7.9	10.5	13.2	13.5	7.9	3.7

原子力やエネルギーに関する情報源は年代による差が顕著

- 新聞
44歳以下は30%を下回る 45歳以上は5割を超える
- テレビニュース
年代を問わず、日頃の情報源として定着 (どの層も6割超)
- 家族、友人、知人との会話
すべての年代で10%を超えている

【年代による差】

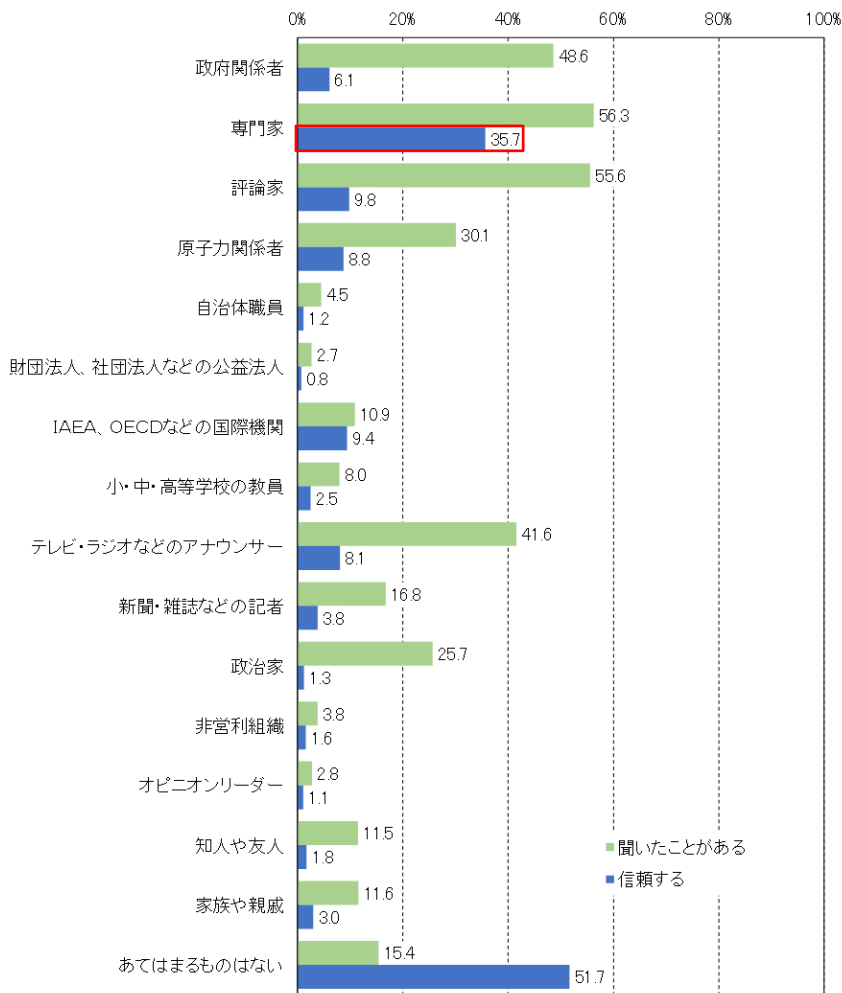
- 若年層 (24歳以下)
学校、検索サイトニュース、スマホアプリ、LINE、Twitterが高い
- 青年層 (25-44歳)
検索サイト上のニュースがやや高い
- 壮年層 (45-64歳)
新聞、検索サイト上のニュースがやや高い
- 高齢層 (65-74歳)
ここ数年でインターネット関連の回答が増加
新聞、テレビニュース、ラジオ、雑誌、自治体の広報誌、マスコミのニュースサイトがやや高い

若年層の情報源は
【学校】
【インターネット(スマホ)】

3-2. 情報発信者に対する信頼 (2021年度)

問15-1 原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を「聞いたことがありますか」。

問15-2 「問15-1で選択した事柄」に限らず、あなたは、原子力やエネルギー、放射線に関する情報について、どのような人や組織の発言を「信頼しますか」。
次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)



【2021年度】

- 信頼できる情報発信者

最も回答率が高い項目：あてはまるものはない (51.7%)

信頼している情報発信者がいない割合が高いが、

選択された中では、**専門家 (35.7%)** が最も回答率が高い

「**専門家**」は、性別・年代を問わず、信頼されている割合が高い



原子力等について専門家から
情報発信する取り組みが求められる

- 若年層 (24歳以下 / N=152) の傾向

聞いたことがある情報発信者として

「小・中・高等学校の教員」の割合が高い (39.5%)

「**小・中・高等学校の教員**」は、専門家、原子力の事業者に次いで信頼が高いため、**若年層**に対しては情報発信のキーパーソンとなる

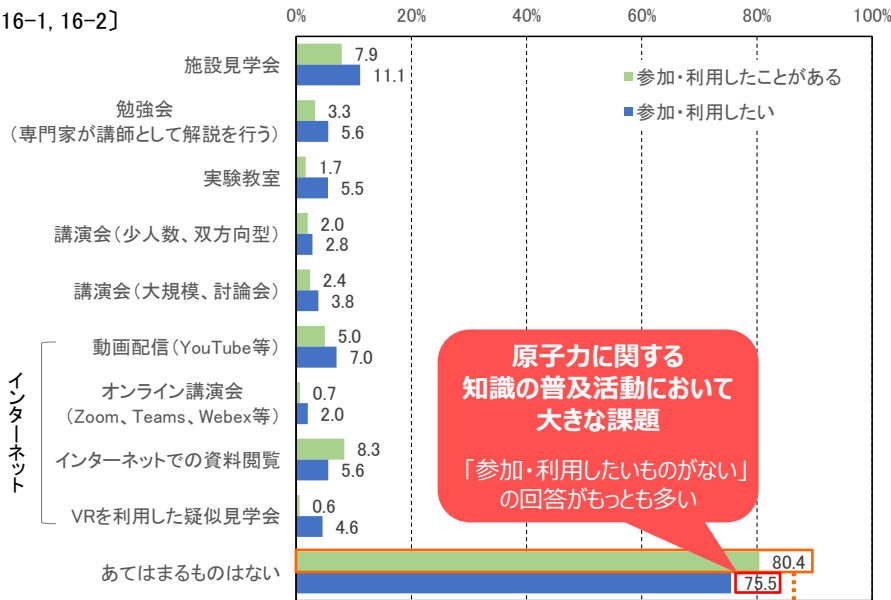
3-3. 情報提供の利用 (2021年度)

問16-1 原子力やエネルギー、放射線に関する情報提供（イベントなど）の中で、「これまで参加・利用したことがあるもの」はどれですか。（○はいくつでも）

問16-2 「問16-2で選択した事柄」に限らず、「今後、参加・利用したいと思うもの」はどれですか。（○はいくつでも）

問16-3 問16-1で「あてはまるものはない」と回答した理由は何ですか。（○はいくつでも）

【問16-1, 16-2】



【2021年度】

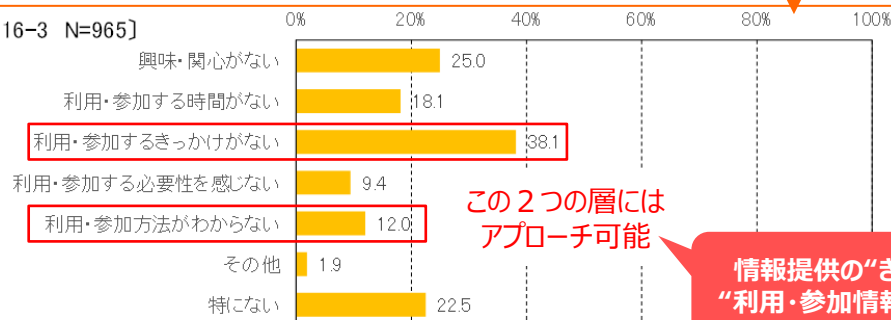
- 参加・利用したい情報提供

選択された中では、施設見学会（11.1%）が10%超
次いで、「動画配信（YouTube等）」が7.0%で続く

最も回答が多い項目：あてはまるものはない（75.5%）

→これまでの傾向と変わらない

【問16-3 N=965】



- 参加・利用したことがない理由（参加・利用経験なし N=965）

最も回答が多い項目：きっかけがない（38.1%）

興味・関心がない（25.0%）、特になし（22.5%）と続く

情報提供の“きっかけ”をつくること、
“利用・参加情報”を届けることが重要

4. 日本原子力文化財団の若年層に対する取り組み

- 4-1. エネルギーや放射線に関する出前授業（専門家派遣）
- 4-2. 高校生の課題研究活動支援
- 4-3. エネ百科「ニュースでよく聞くあのはなし」
- 4-4. エネ百科「エネルギーアカデミー」

4-1. エネルギーや放射線に関する出前授業（専門家派遣）

◆原子力に関する世論調査の結果より

- ・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源：【若年層】は【学校】で情報を得ている割合が高い
- ・情報発信者に対する信頼：【専門家】に対する信頼度が高い、【若年層】のキーパーソンは【学校教員】

エネルギーや放射線の【専門家】を【学校】へ派遣する出前授業を開催



全国の中学校・高等学校等を対象に
エネルギーや原子力・放射線等に関する専門家を【無料】で派遣している

キーパーソンの【教員】の方々には
知識の習得のほか、
授業作りや指導の参考として
お役立ていただける内容

財団運営のWEBサイト「エネ百科」で紹介
https://www.ene100.jp/delivery_class

●開催例：エネルギー関連（高等学校）

講義「脱炭素社会に向けたこれからのエネルギー事情」



- 先生 オンラインの解説動画では収まりきれない、直接お話しできるがゆえのボリュームや説得力がありました。今後ともぜひお願いしたいです。
- 先生 ニュースで普段見聞きする話題に関して、詳しく解説していただきましたので、生徒の理解が深まったと思います。
- 生徒 再生可能エネルギーのことについて、まだ理解が深まっていない部分があったので、この機会に考えることができよかったです。
- 生徒 とてもわかりやすい授業をありがとうございました。この先、自分の行動を考え直し、改めていきたいです。
- 生徒 原子力発電には危険なもの、怖いというイメージがあったけど、うまく使えば二酸化炭素の排出量を減らすことができ、エネルギーの自給率を上げていく上でとても重要なものであるとわかった。
- 生徒 放射性廃棄物などの問題は自分のこれからの生活にも関係すると思うし、知識を深めることで自分から何かアクションを起こせるようになるかもしれないと思いました。

●開催例：放射線関連（高等学校）

講義「放射線の基礎」／実習「自然放射線の測定、霧箱の観察」



- 先生 講師の先生が、地元のデータを使ってお話していただいたこと、また基礎的な内容をしっかりとご説明していただけたので理解がやすく、生徒の関心が高まったと思います。
- 生徒 わかりやすい授業で、放射線を前より身近に感じることができました。危険なものといった固定概念をもっていたけれど、上手に活用することで、より便利な生活にすることができ、とてもいいと思いました。
- 生徒 とても関心のある分野のお話だったので受講していて、とても楽しかったです。放射線がメディアで取りざたされているほど悪いものではないという知識はありましたが、これほど身の周りの物事に利用されているというのは初めて知りました。
- 生徒 今まで放射線と聞くとは何となく恐怖といった感情を抱いていました。しかし、今日の講演会で、放射線はさまざまなところで活用されており、微量なら人体には影響がないと学びました。そのため、以前までの放射線への悪いイメージを払拭して、これから生活していきたいとおもいました。
- 生徒 自分の持っている知識から発展的なことに繋がる授業でした。初めて知ったことが多かったです。

「興味を持ったので進路の選択肢に入れたい」という感想が複数の生徒から得られた
原子力・放射線分野の人材育成に寄与

4-2. 高校生の課題研究活動支援

- ◆原子力に関する世論調査の結果より
 - ・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源：【若年層】は【学校】で情報を得ている割合が高い
 - ・情報発信者に対する信頼：【専門家】に対する信頼度が高い
 - ・情報提供の利用：【施設見学会】の参加希望がやや多い

エネルギー・原子力に関する
課題研究活動を行う【学校】を募集
【専門家】の講義・【施設見学会】の
実施などの課題研究活動を支援



●2022年度の課題

30年後には社会の中心となる高校生の皆さんは、
2050年の日本のエネルギー社会をどう考えますか。

全国の高等学校・高等専門学校から
エネルギー・原子力に関する課題研究活動
を行う学校を募集し、課題研究活動を支援

専門家の講義や施設見学会の実施などの
課題研究活動、さらに、参加校との交流会、
成果発表会などを通して、情報収集力や
協調性、表現力、発信力が身につくプログラム

財団運営のWEBサイト「エネ百科」で紹介
<https://www.ene100.jp/themed-research>



↑専門家の講義



施設見学会→



交流会（グループワーク）



成果発表会



若年層が利用するSNSで
高校生の取り組みを発信



4-3. エネ百科「ニュースでよく聞くあのはなし」

◆原子力に関する世論調査の結果より

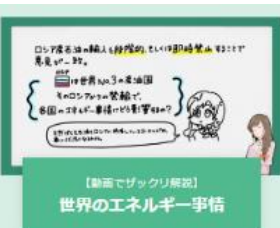
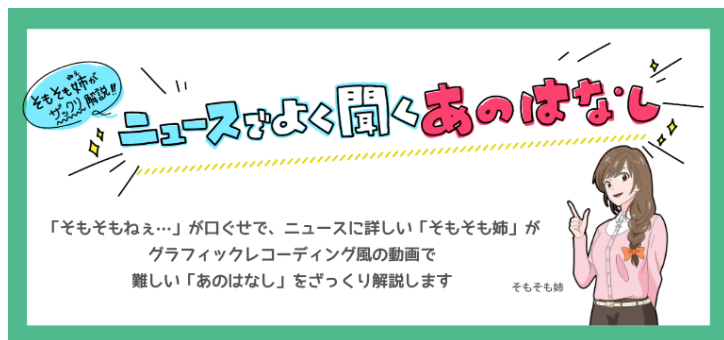
・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源

【若年層】は【インターネット（スマホ）】で情報を得ている割合が高い

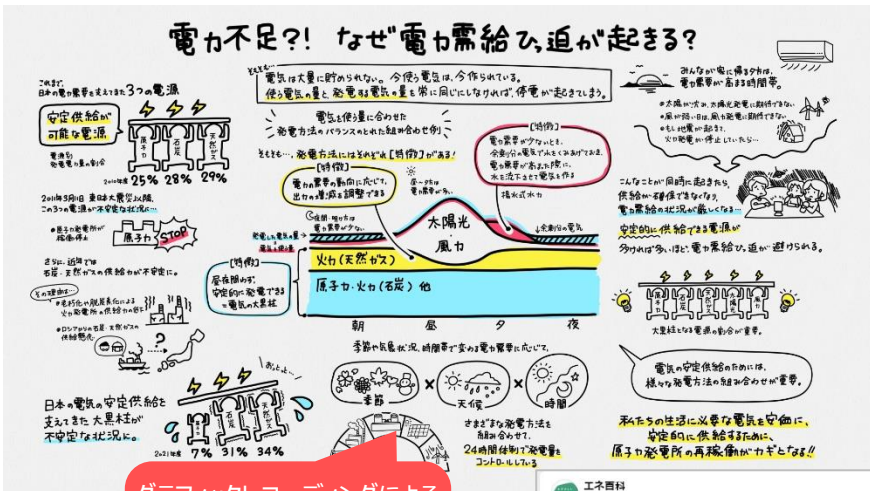
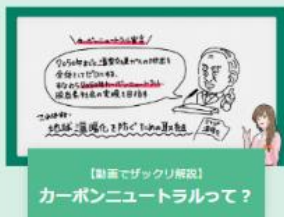
・情報提供の利用：【動画配信（YouTube等）】の利用希望もやや多い

【インターネット（スマホ）】で気軽に視聴できる

エネルギーや原子力のニュースの“そもそも”を解説するWEBコンテンツを制作し、【YouTube】・【SNS】で発信

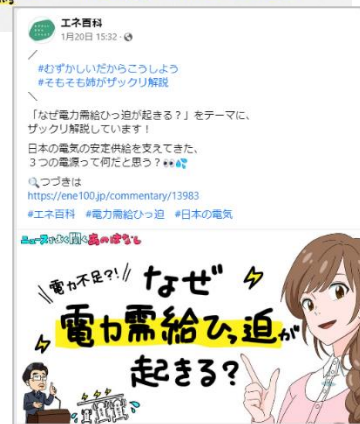


ニュースでは取り上げない“そもそも”をザックリ解説 + WEBで解説



グラフィックレコーディングによる動画解説 + WEBでの専門家解説

＼SNSで発信／



4-4. エネ百科「エネルギーアカデミー」

- ◆原子力に関する世論調査の結果より
- ・ふだんの原子力やエネルギー、放射線に関する情報源
- 【若年層】は【インターネット（スマホ）】で情報を得ている割合が高い
- ・情報発信者に対する信頼：【専門家】に対する信頼度が高い
- ・情報提供の利用：【動画配信（YouTube等）】の利用希望もやや多い

【インターネット（スマホ）】で閲覧することができる
お笑い芸人と【専門家】がトークするエネルギーに関する
動画を若年層に向けて【YouTubeで配信】



◎ #1 「コロナ危機で見えてくる自給率の大切さ」

天然ガスとかびょう、物々交換してエネルギー危機を乗り切る？！コロナ危機で顕在化したマスクや医療機器の「自給率の低さ」を日本のエネルギーに当てはめて考察。海外に過度に依存している日本のエネルギーの実態が見えてきます。



◎ #2 「石油が支える世界経済の終わり」

原油生産量が1位の国は・・・宇都宮！？コロナ禍で経済活動がストップし、原油が余る状態が続くことが、エネルギー産業だけでなく金融や世界経済にも波及していく仕組みについて順を追って解説します！



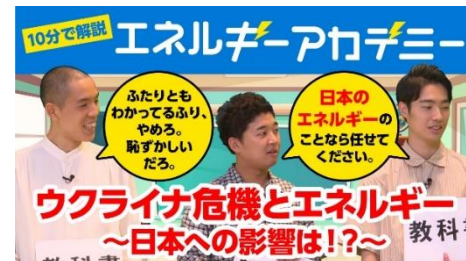
◎ #3 「日本のエネルギーが抱える問題点」

宇都宮餃子が日本のエネルギー問題！？！オイルショックを新エネ、省エネ、原子力で乗り切ろうとした日本。現在は、地球温暖化の影響に配慮しつつも、再び火力発電に頼らざるを得ない状況にあるなど、歴史を通して、日本のエネルギーの海外依存の深刻さに目を向けます！



◎ #4 「日本のエネルギーはどうあるべきか」

日本のエネルギーは牛が救う？！新エネルギーのリスク、需給のアンバランスが引き起こす停電、国外にエネルギーの供給網がない日本。日本のエネルギーの課題に目を向け、Withコロナ、Afterコロナの世界で日本が生き抜くためのヒントを探ります。



エネルギーアカデミー第二弾は
【12万回】視聴

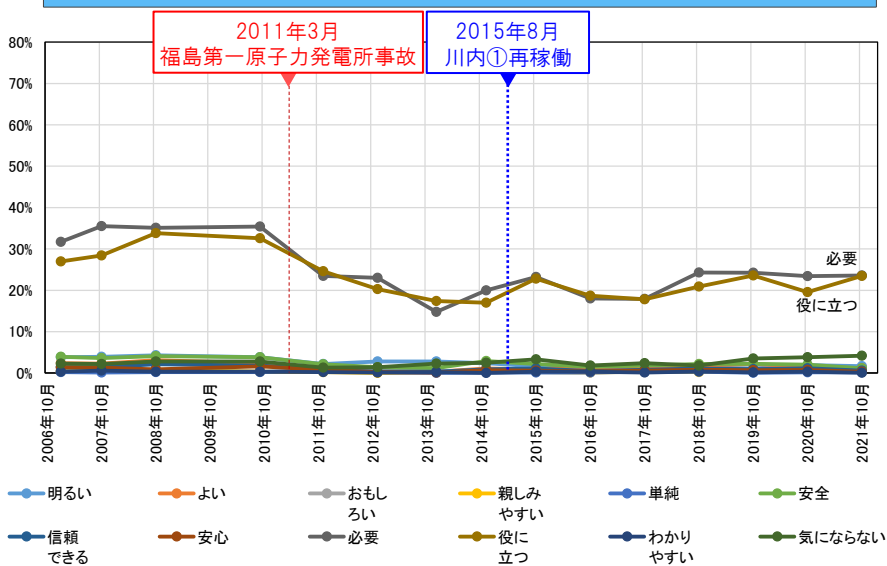
5. 参考資料（原子力に関する世論調査のその他の結果）

- 5-1. 原子力に対するイメージ
- 5-2. エネルギーや原子力、放射線に対する関心
- 5-3. エネルギー・環境、原子力の情報保有量
- 5-4. 放射線、HLWの情報保有量
- 5-5. 今後、利用すべきエネルギーに対する考え
- 5-6. 原子力発電の再稼働に対する考え
- 5-7. 高レベル放射性廃棄物の処分に対する考え
- 5-8. 信頼（専門家・事業者・国・自治体）

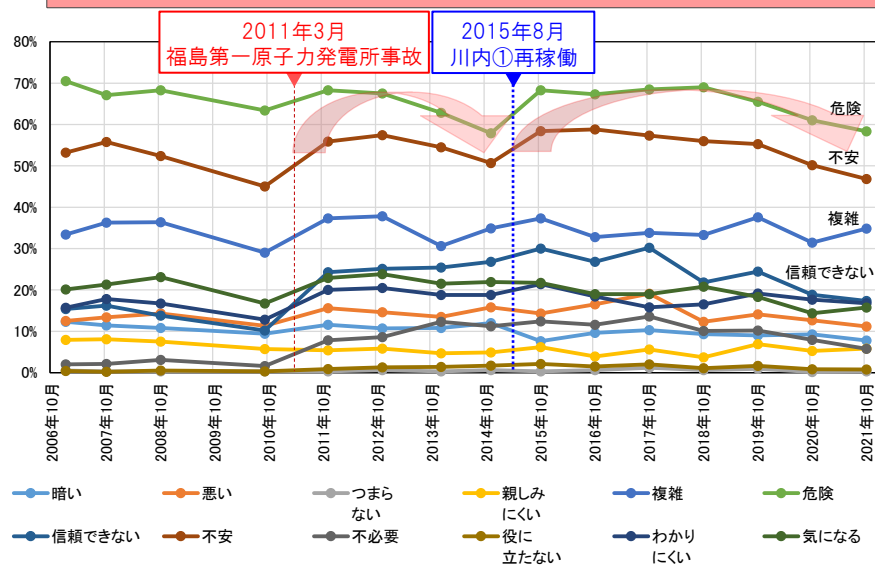
5-1. 原子力に対するイメージ (2006~2021年度)

問1 あなたは「原子力」という言葉を聞いたときに、どのようなイメージを思い浮かべますか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

肯定的なイメージ



否定的なイメージ



- 原子力に対するイメージは、2011年の福島第一原子力発電所事故の前から「否定的なイメージ」のポイントが高く、その中でも、「危険」、「不安」は、事故の前後に関わらず、高い割合を示している
- 否定的なイメージの「危険」、「不安」は2018→2021で、「信賴できない」は2017→2021で、ポイントが減少傾向※ ※ x²検定により有意差があることを確認
- 否定的なイメージの変動理由

影響を与えるうる出来事およびニュースで伝えられる情報量によって変動したと推測

【2010～2014年度】の変動：2011年の福島第一原子力発電所の事故

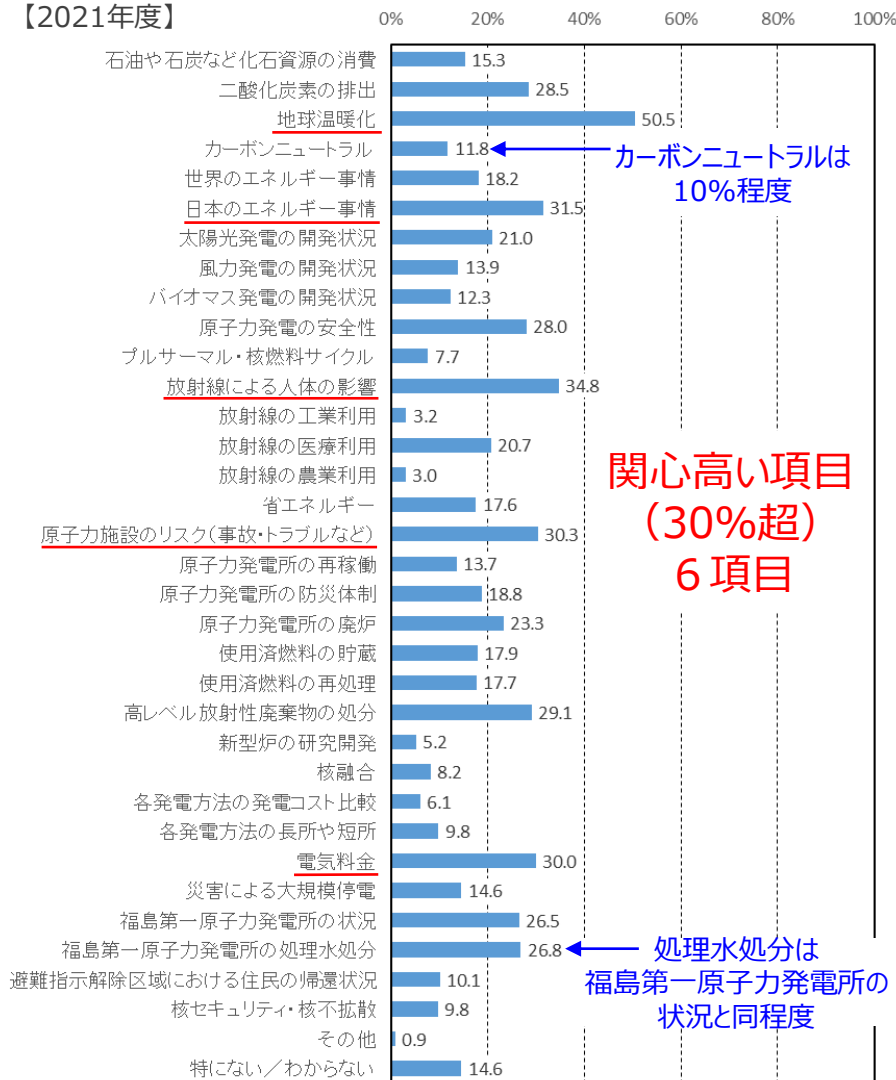
【2014～2021年度】の変動：2015年の川内原子力発電所1号機の再稼働（新規制基準で初）

ニュースで伝えられる原子力の情報量が増えたことで「危険」、「不安」のポイントが増加
その後、徐々にニュースで伝えられる情報量が減少し「危険」、「不安」のポイントが減少

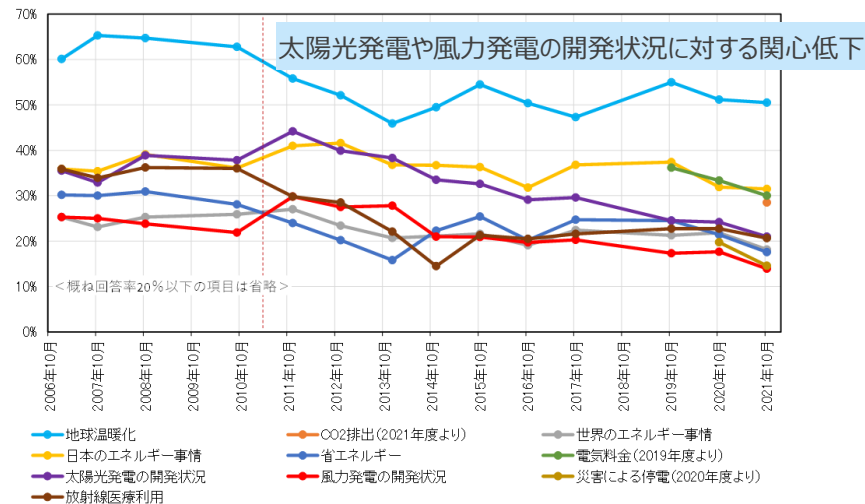
5-2. エネルギーや原子力、放射線に対する関心 (2006~2021年度)

問3 原子力やエネルギー、放射線の分野において、あなたが関心のあることはどれですか。次の中からあてはまるものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

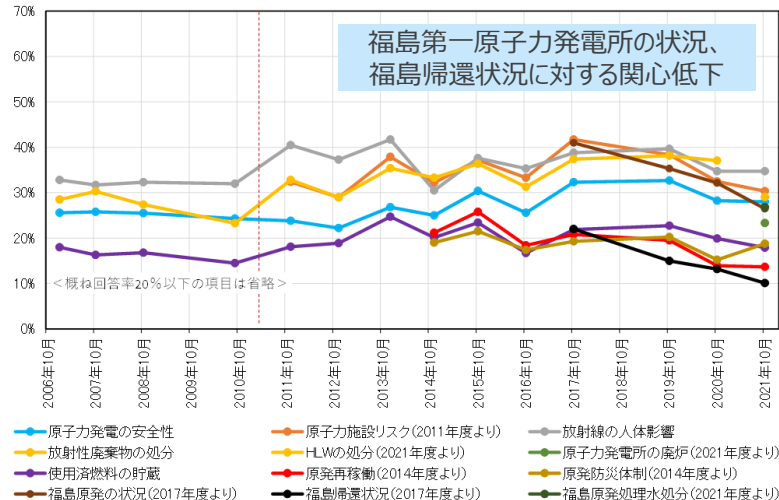
【2021年度】



【2006~2021年度】エネルギー・環境関連



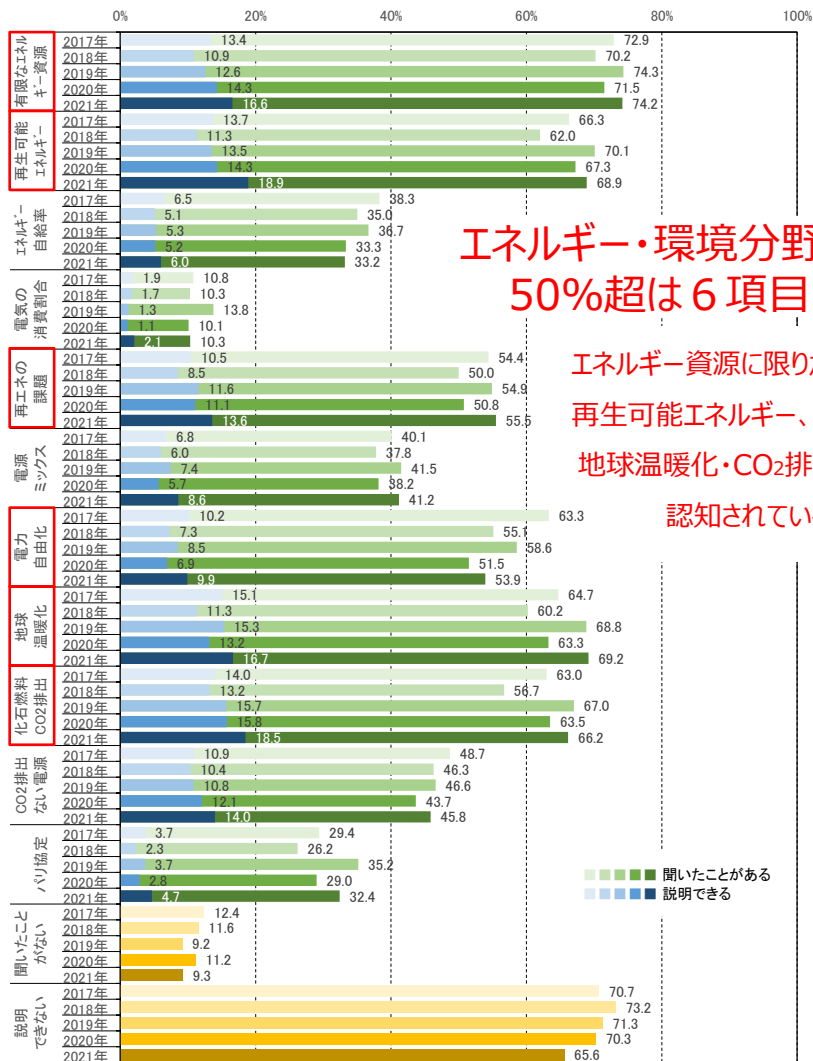
【2006~2021年度】原子力関連



5-3. エネルギー・環境、原子力の情報保有量 (2017~2021年度)

問 あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。／ 問 「選択した事柄」のうち、あなたが「他の人に説明できるもの」はどれですか。

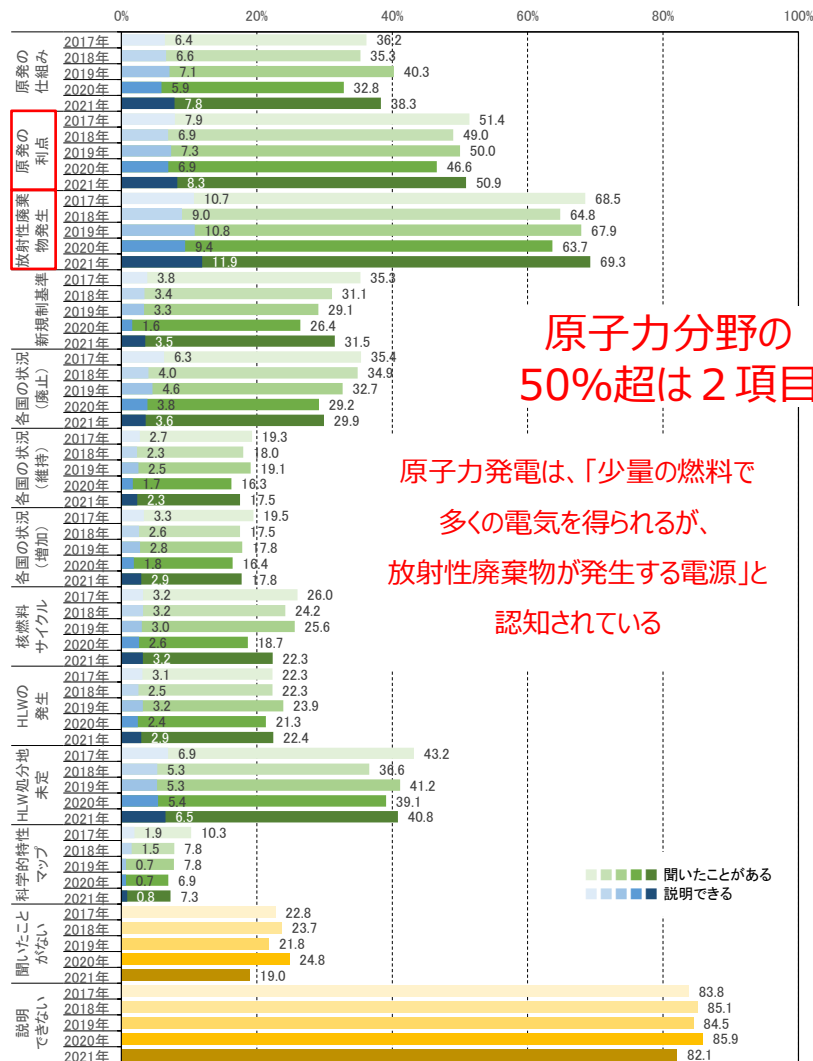
【エネルギー・環境分野】



エネルギー・環境分野の
50%超は6項目

エネルギー資源に限りがあること、
再生可能エネルギー、その課題、
地球温暖化・CO2排出関連が
認知されている

【原子力分野】



原子力分野の
50%超は2項目

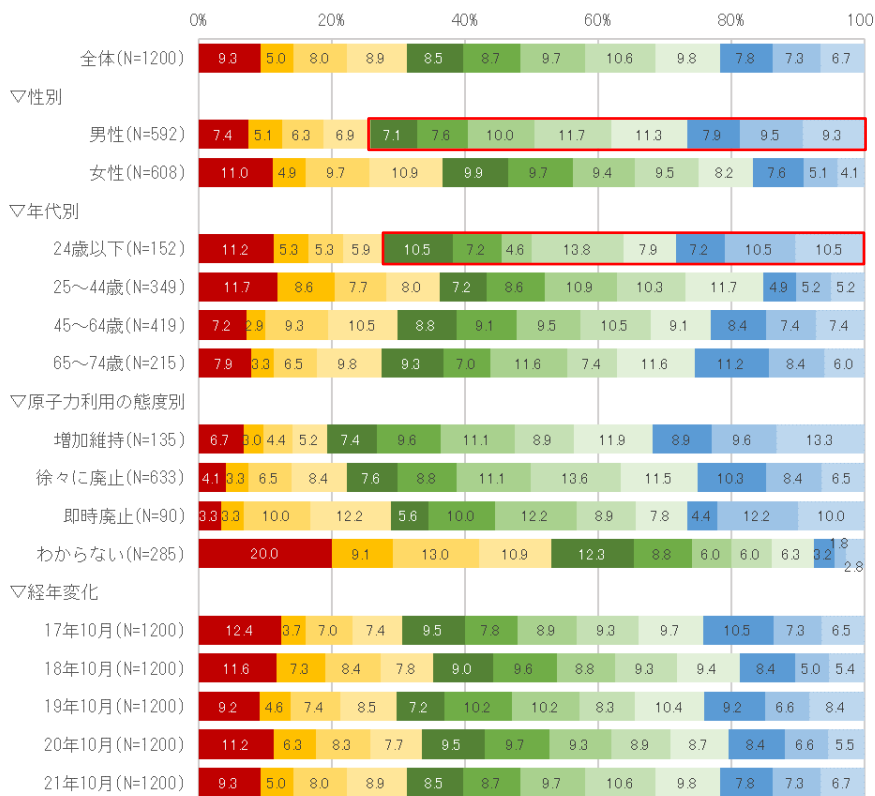
原子力発電は、「少量の燃料で
多くの電気を得られるが、
放射性廃棄物が発生する電源」と
認知されている

5-3. エネルギー・環境、原子力の情報保有量 (2017~2021年度)

問 あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。

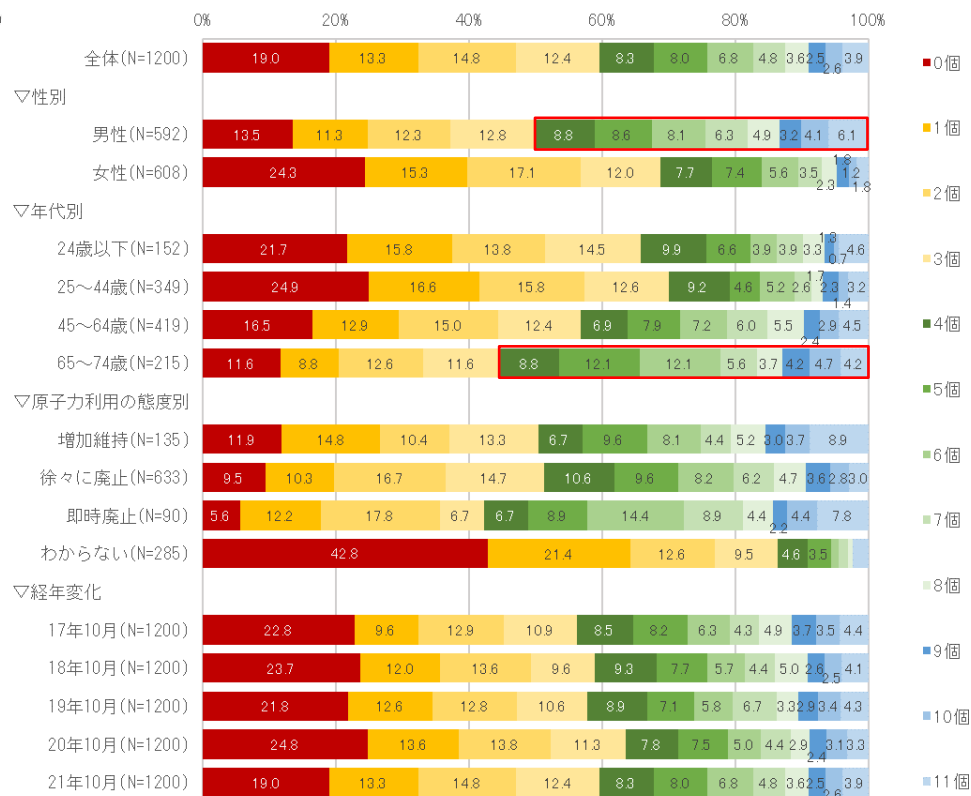
【エネルギー・環境分野】情報項目の選択個数分布

- 女性よりも**男性**の方が4個以上選択する割合が高い
- 原子力分野と比べると、**若年層（24歳以下）**の選択する割合が高い
- 2017-2021で大きな変化は見られない



【原子力分野】情報項目の選択個数分布

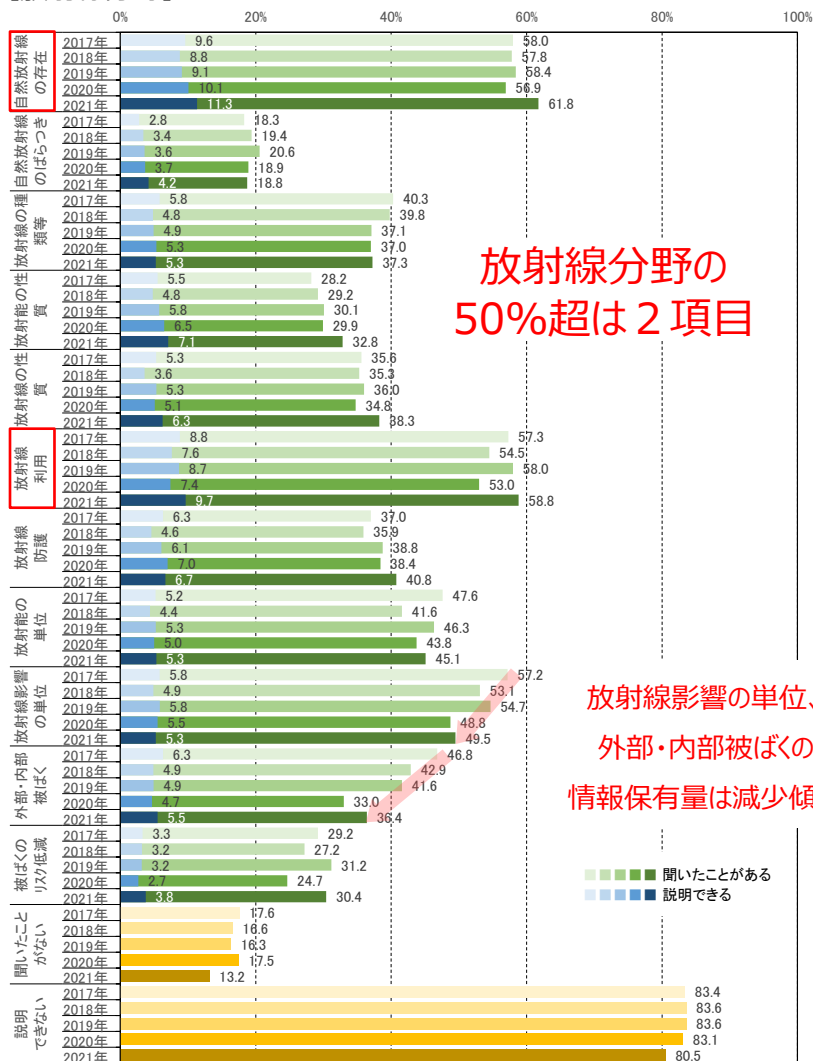
- 女性よりも**男性**の方が4個以上選択する割合が高い
- 他の層と比べて**高齢層（65-74歳）**の4個以上選択する割合が高い
- 2017-2021で大きな変化は見られない



5-4. 放射線 (2017~2021年度)、HLW (2019~2021年度) の情報保有量

問 あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。／ 問 「選択した事柄」のうち、あなたが「他の人に説明できるもの」はどれですか。

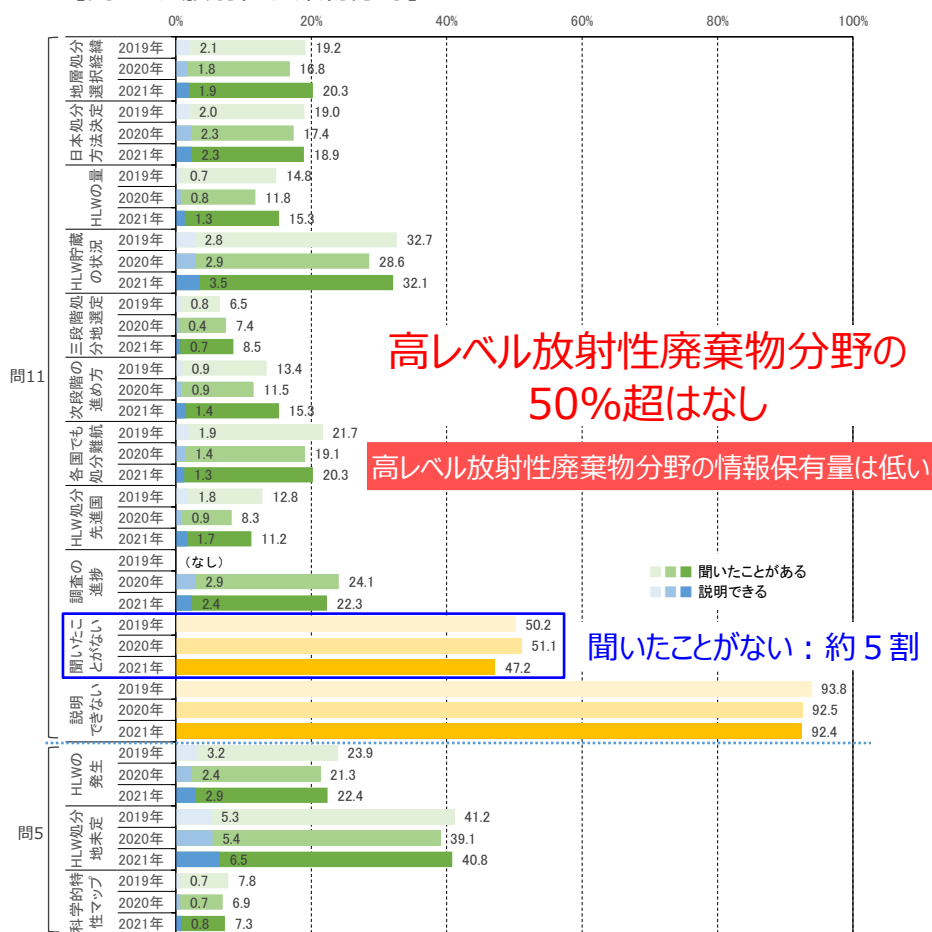
【放射線分野】



放射線分野の
50%超は2項目

放射線影響の単位、
外部・内部被ばくの
情報保有量は減少傾向

【高レベル放射性廃棄物分野】



高レベル放射性廃棄物分野の
50%超はなし

高レベル放射性廃棄物分野の情報保有量は低い

聞いたことがない：約5割

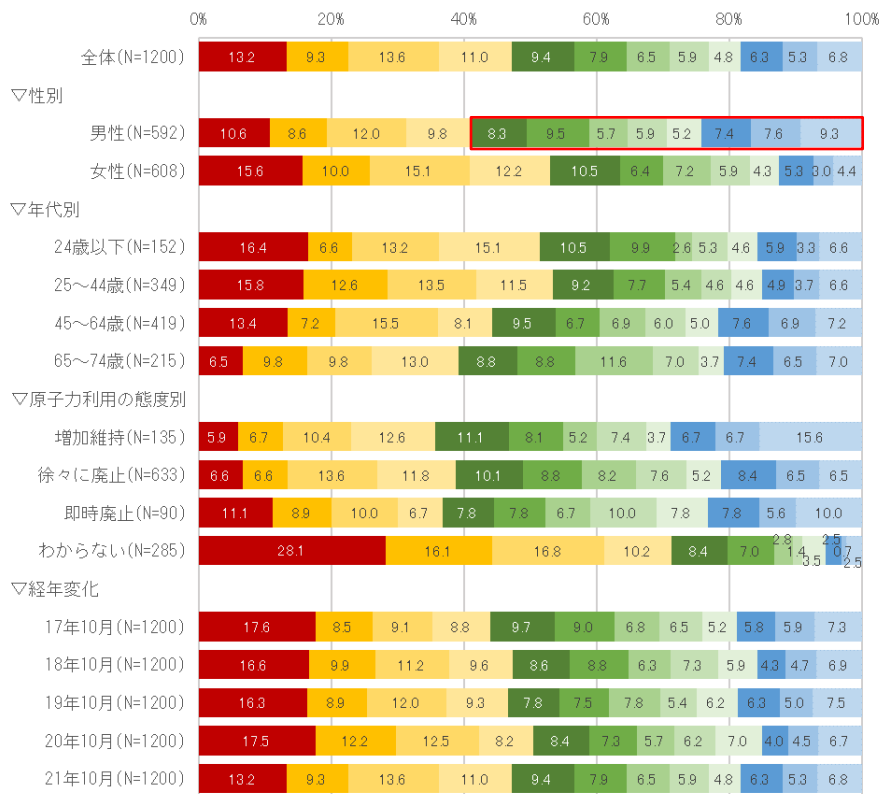
国民全体で考えなければならない問題であるため、
HLWの情報をいかに全国へ届けるかが最重要課題

5-4. 放射線 (2017~2021年度)、HLW (2019~2021年度) の情報保有量

問 あなたが「聞いたことがあるもの」はどれですか。

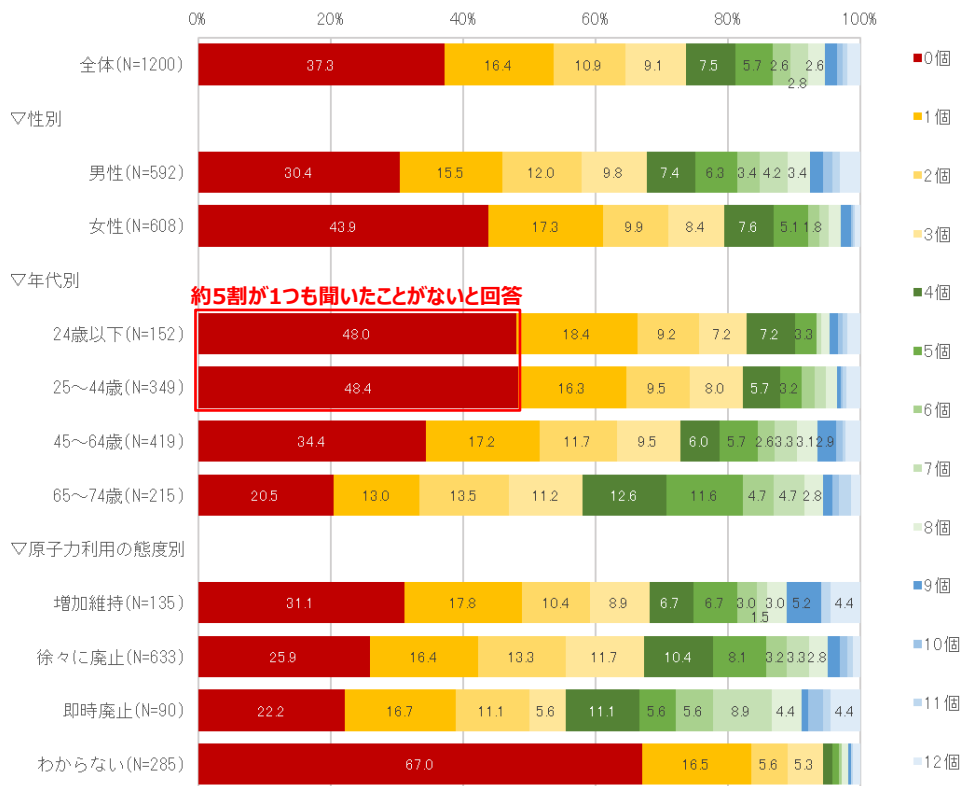
【放射線分野】情報項目の選択個数分布

- 女性よりも**男性**の方が4個以上選択する割合が高い
- 年齢が高い方が選択する割合が高い
- 2017-2021で大きな変化は見られない



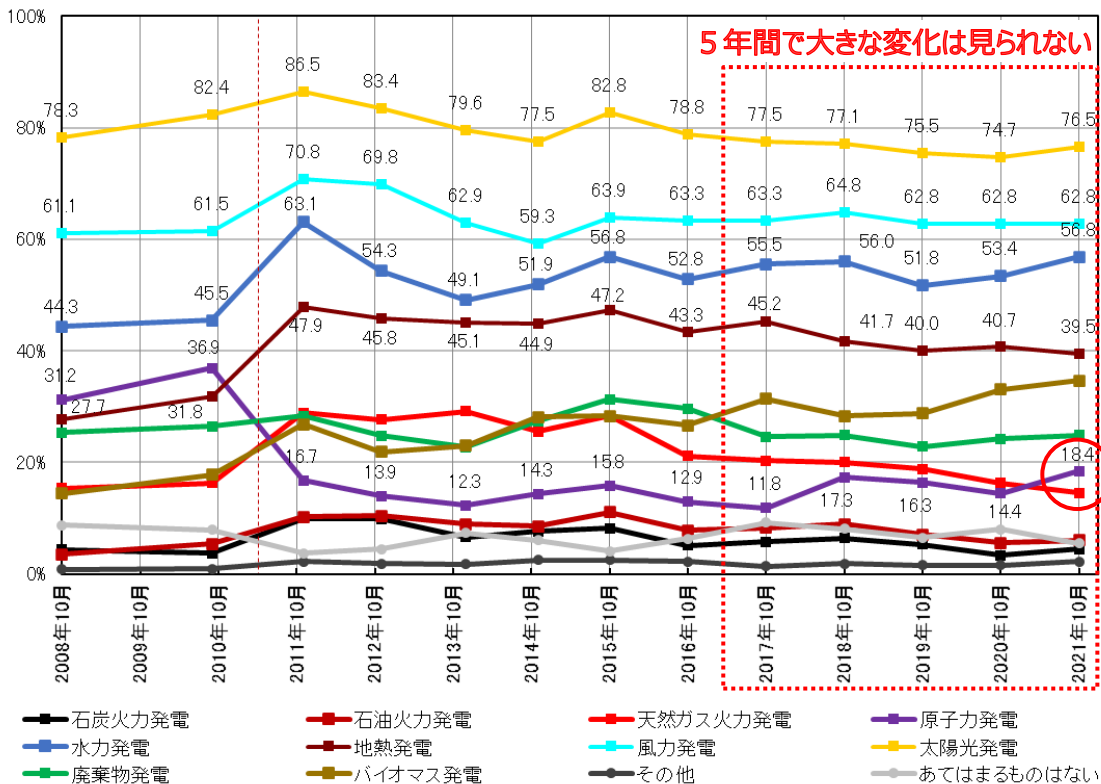
【高レベル放射性廃棄物分野】情報項目の選択個数分布

- **若年層 (24歳以下)**、**青年層 (25-44歳)** の約5割は高レベル放射性廃棄物のことを**1つも聞いたことがない**と回答



5-5. 今後、利用すべきエネルギーに対する考え (2008~2021年度)

問7 今後日本は、どのようなエネルギーを利用・活用していけばよいと思いますか。以下にあげているエネルギーの中から、お選びください。(〇はいくつでも)



2011年度以降、
 ①太陽光発電 ②風力発電
 上位項目に変化なし ③水力発電 ④地熱発電

【経年変化】 直近5年間で大きな変化は見られない

- 天然ガス火力は、福島第一原子力発電所の事故後に増加したが、2016年度から徐々に減少し、事故後初めて天然ガス火力の期待度を原子力発電が上回った
- 2017年度以降、バイオマス発電が5番目を維持
- 石炭火力、石油火力は、低い選択率のまま

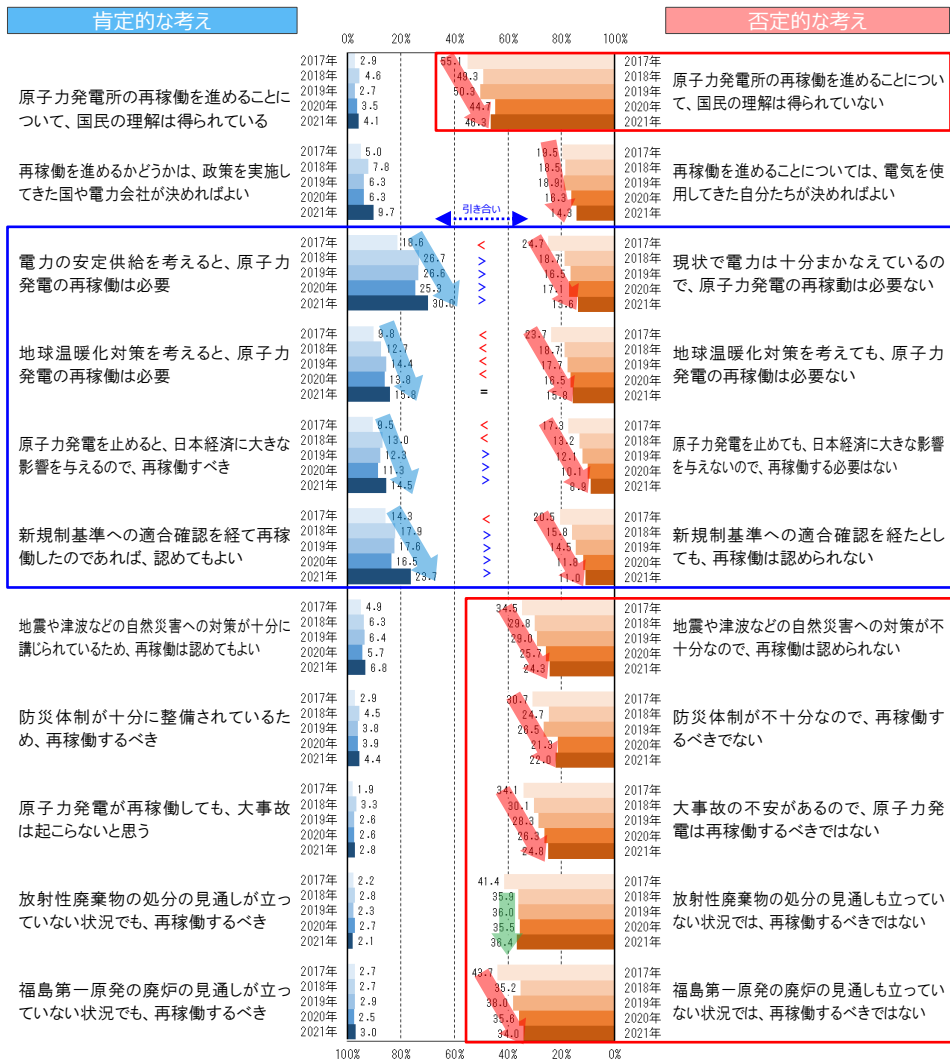
【2020年度】	全体	年代			
		24歳以下	25~44歳	45~64歳	65~74歳
全体(N)	1200	150	351	409	210
石炭火力発電	3.3	5.3	4.0	1.7	2.4
石油火力発電	5.6	5.3	6.8	4.2	6.2
天然ガス火力発電	16.3	11.3	14.2	16.1	19.0
原子力発電	14.4	17.3	16.8	13.2	10.5
水力発電	53.4	52.7	52.4	50.6	60.0
地熱発電	40.7	36.0	37.3	43.5	40.0
風力発電	62.8	56.0	62.1	62.6	69.5
太陽光発電	74.7	66.7	71.5	78.0	76.7
廃棄物発電	24.2	24.0	26.2	20.3	28.1
バイオマス発電	33.1	27.3	30.2	34.2	39.0
その他	1.5	0.7	2.3	1.5	1.4
あてはまるものはない	8.0	13.3	9.7	6.6	6.2

【2021年度】	全体	年代			
		24歳以下	25~44歳	45~64歳	65~74歳
全体(N)	1200	152	349	419	215
石炭火力発電	4.4	7.2	6.3	2.9	3.3
石油火力発電	6.0	8.6	7.2	5.3	4.7
天然ガス火力発電	14.5	9.2	14.6	13.4	20.5
原子力発電	18.4	20.4	19.5	18.6	18.1
水力発電	56.8	51.3	55.3	58.2	61.4
地熱発電	39.5	37.5	36.1	37.5	49.3
風力発電	62.8	60.5	59.0	64.2	67.0
太陽光発電	76.5	69.7	70.5	78.0	86.5
廃棄物発電	24.8	25.0	19.8	24.6	34.4
バイオマス発電	34.7	30.3	32.7	36.5	39.5
その他	2.2	2.0	2.3	2.4	1.4
あてはまるものはない	5.4	9.2	6.6	3.8	4.2

原子力発電については、どの年齢層においても2020→2021で増加（高齢層の増加率がやや高い）

5-6. 原子力発電の再稼働に対する考え (2017~2021年度)

問9-1 原子力規制委員会による新規制基準への適合確認を通過した原子力発電所は、地元自治体の了解を得て、再稼働されることになります。以下のような再稼働に関するご意見について、あなたのお考えにあてはまるものがありましたら、すべてお選びください。(○はいくつでも)



【赤枠】：考えが片側に集中している項目

- 否定的な考えに回答が集中している項目が多いため、再稼働を否定する理由をしっかりと受け止める必要がある

【青枠】：考えが引き合いになっている項目

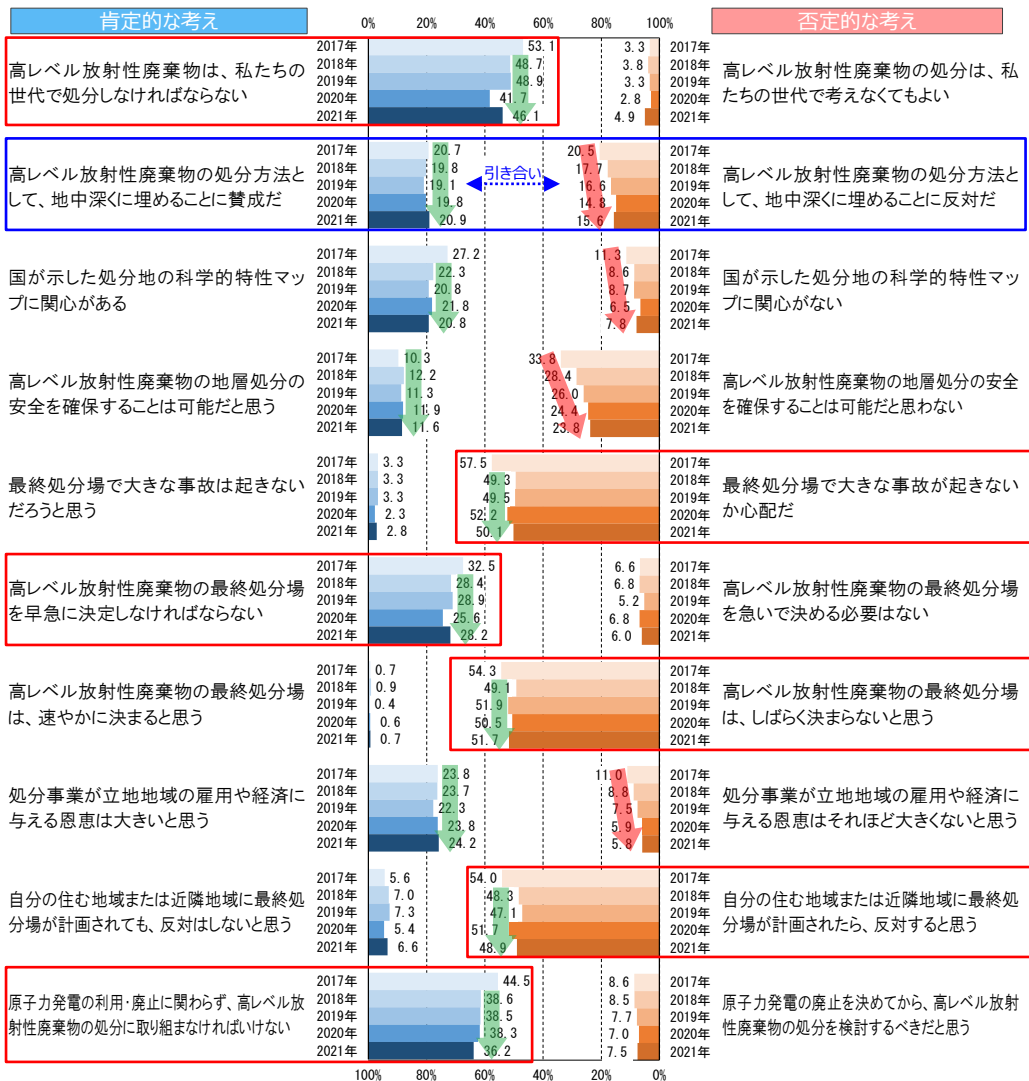
- 電力安定供給、地球温暖化対策、日本経済への影響、新規制基準の適合は、肯定側と否定側の双方に意見があり、意見が引き合いになっている
- 電力安定供給、新規制基準の適合は、肯定と否定の割合が2017~2021で逆転し、肯定的な考えの割合の方が高くなった

【否定的な考え】

- 再稼働に対する否定的な考え（すべての項目）が2017→2021で減少傾向※ ※ χ^2 検定により有意差があることを確認
- ただし、放射性廃棄物の見通しが立っていないことを理由に再稼働を否定する割合は2018→2021で変動していない

5-7. 高レベル放射性廃棄物の処分に対する考え (2017~2021年度)

問12 高レベル放射性廃棄物の処分について、あなたは、以下のような意見をどのように感じますか。あなたのご意見と近いものをお選びください。(○はいくつでも)



【赤枠】：考えが片側に集中している項目

「処分を進めなければならないと思う一方で、大きな事故が心配で、近隣への処分場立地には反対、最終処分場はしばらく決まらない」という意見を持っている

【青枠】：考えが引き合いになっている項目

地層処分が国際的に共通した最善の選択肢とされているが、「地中深くに埋めること」に対して意見が引き合いになっている
ここ数年、肯定的な考えの方がポイントが高い

【経年変化】

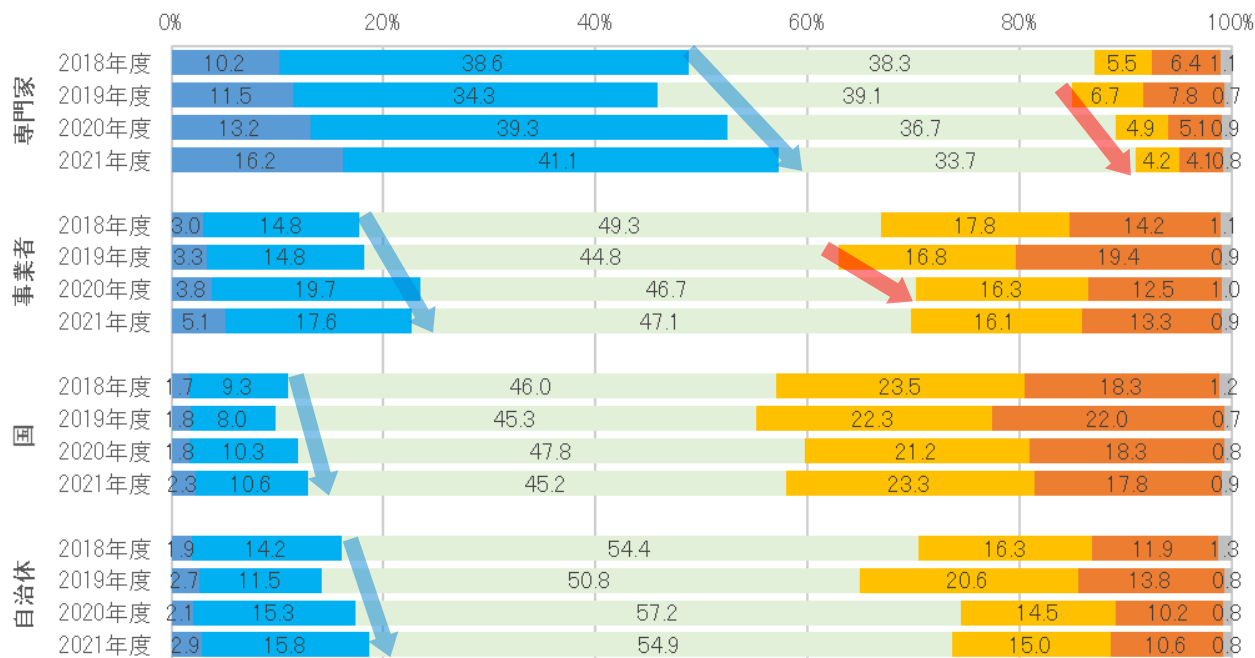
- 【赤枠】の大きな意見は、2018→2021の4年間で大きな変化は見られない
- 再稼働に対する考え (P.24) と比べると、大きな変化は見られない

国民全体が関心を持ち、HLWを考えるきっかけとなる情報発信が必要

5-8. 信頼 (専門家・事業者・国・自治体 / 2018~2021年度)

問13 今後、原子力発電を利用、もしくは、廃止していく上で、あなたは、次の人や組織を信頼できると思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

- ・原子力の専門家 (研究機関の研究者、大学教授などの原子力の学問・事柄を専門に研究・担当し、精通しているとされる方)
- ・原子力の事業者 (原子力発電所の運転事業を営む電力会社など)
- ・国 (政府など)
- ・自治体 (都道府県・市町村)



原子力の事業者

若年層の信頼回答の割合が高い

	全体	年代			
		24歳以下	25~44歳	45~64歳	65~74歳
全体(N)	1200	152	349	419	215
信頼できる	5.1	13.2	6.6	2.6	2.3
どちらかといえば信頼できる	17.6	21.7	20.3	16.2	12.6
どちらともいえない	47.1	50.0	49.0	47.3	42.3
どちらかといえば信頼できない	16.1	8.6	14.3	15.3	25.1
信頼できない	13.3	6.6	8.9	17.9	15.8
無回答	0.9	0.0	0.9	0.7	1.9

(%)

■ 信頼できる ■ どちらかといえば信頼できる ■ どちらともいえない ■ どちらかといえば信頼できない ■ 信頼できない ■ 無回答

【2021年度】

- ・ 原子力の専門家 : 信頼回答57.3% > 不信回答8.3% 【信頼回答が優位】
- ・ 原子力事業者 : 信頼回答22.7% < 不信回答29.4% 【不信回答が優位】

【経年変化】

- ・ どの主体も信頼回答が増加傾向
- ・ 不信回答は、ポイントが高かった時期より減少傾向